

# いの健ニュース

NO, 40

URL: <http://inoken-miyagi.jimdo.com/> E-Mail: inoken.miyagi@gmail.com

仙台市青葉区五橋 1-5-13 宮城県労連気付 (TEL 022-268-3684)

## 第15回総会開催

### 「過労死防止対策推進法」の成立を力に、 「残業代ゼロ法案」など労働法制改悪を廃案に！

5月27日(水)18時30分から、仙台市戦災復興記念館において、「働くもののいのちと健康を守る宮城県センター第15回総会」を開催しました。参加者は、26名でした。

開会あいさつは、安藤満会長から、国会での「残業代ゼロ法案」「戦争立法」など、国民のいのちと健康、暮らしを狙い撃ちにする安倍暴走内閣との闘いの情勢と昨年度の宮城県内の闘いの成果に確信を持って、今年度総会を新たな出発点に出来る集まりになるよう積極的な討論をお願いします。とあいさつがありました。

顧問のあいさつは、杉山茂雅弁護士から、昨年度の過労死（自死）遺族の長年の願いであった「過労死防止法」が成立したことを喜び合いたいと思います。しかし、安倍内閣は、過労死増進につながるような労働時間規制をなくす「残業代ゼロ法案」を国会に提出して、世界一企業が働きやすい国にするために労働法制の規制緩和を進めています。廃案に追い込む闘いを一緒に取り組みましょうと訴えられました。

議事に入り、議長は熊谷義純事務局次長が選出されました。

議案提案は、芳賀事務局長より、2014年度活動の報告と2015年度の活動の方針、2014年度決算、2015年度予算と一括して提案がありました。

経過報告では、年間の労働相談件数が500件を超えて、特にパワハラ・いじめなどの職場の人間関係の問題やブラック企業で働く若者からの相談が増えていること。また、4月には過労自殺の相談があり、労災申請に向けて遺族とともに取り組んでいる報告がありました。この事案は、裁量労



働制の下で働いている労働者の事案であり、今国会で審議されている「残業代ゼロ法案」の行き着く先を暗示させるものです。

また、過労死家族の長年の願いであった「過労死等防止対策推進法」が、昨年6月に成立し、11月には過労死防止啓発月間として、「過労死110番」や「過労死フォーラム」を取り組んだことが報告されました。

2015年度の取り組みとしては、継続している労災、公災事案について認定を勝ち取るために取り組むこと。東北セミナー岩手集会への参加、2016年度の東北セミナー宮城集会の準備をすすめること。などを確認しました。

## ストレスチェック制度の問題点

質疑討論の冒頭に、広瀬俊雄医師（仙台錦町診療所・産業医学センターセンター長）から、今年の12月から義務化される「労案法に基づくストレスチェック制度」の問題点についての解説がありました。問題点として（1）「ストレス検査」の妥当性が疑わしく「レッテル」を貼られてしまう恐れがある。（2）「面接指導」を受けると、会社に個人情報伝わる。（3）50人以下の小企業や自営業者は対象外（4）職場環境の改善につながらない恐れがある。これから、導入までの間に、職場の安全衛生委員会で、これらの問題点を解消するような取り組みが必要でと呼びかけました。



## 各団体からの報告

### ソニー労働組合仙台支部の活動

ソニー仙台TECにおける、「追い出し部屋」を解消の闘いの報告と、新たに始まった「専門業務型裁量労働制」による長時間労働の野放しの実例を調査して宮城労働局に告発した闘いが報告されました。

ソニーの裁量労働制は、エキスパート勤務と称して、所定見なし勤務時間は1日7時間45分と裁量手当＝残業時間25時間程度と引き替えに、無定量の長時間労働が強いられ実質的に年収100万円程度の賃下げになっている。しかし、労働実態は、今までと変わらず「裁量」がない状態です。今国会で審議されている「残業代ゼロ法案」の先取りの実態が報告されました。



### 宮城県商工団体連合会の活動

「業者はからだ資本」病気になったらとたんに生活が立ちゆかなくなる。年1回の健康診断

を、家族、従業員も対象に取り組み健康で働き続けられる条件をつくる運動に取り組んでいて、会員の皆さんから頼れる「民商」と言われるようになっています。

また、「働くもののいのちと健康を守る学習会」にも取り組み、昨年度は、「認知症対策についてと介護保険について」の学習を、講師に、坂総合病院前院長の今田隆一先生をお招きして開催して好評を得たことが報告されました。



## 建交労宮城県本部の活動

建交労宮城県本部は、東日本大震災後の建設、運輸業者の中での労働者の働かされている実態が報告されました。復興工事は、資材不足や人材不足などの影響もあり遅れています。そのような中で、高齢者や未熟練の労働者が増えている背景も影響して、過酷労働災害が4年連続して史上最高を記録していて、安全な労働環境の確保が求められている。



また、震災後に大幅に増えたビルなどの建築物の解体、大規模改装の工事でのアスベストの飛散事故も絶えない。原因として、施工する業者の経験不足やアスベスト被害の深刻さについての知識が不足していることが上げられる。また、規制する側の行政も、専門職員の不足のために規制が十分果たされていないことも二重に影響していると報告されました。

その他に、除染労働者の健康管理のずさんさ、賃金のピンハネや不払いなどの実態も報告されました。

## 宮城民医連、宮城県教組の活動報告

### ○宮城民医連の活動

#### ①「働くもののいのちと健康」に関わる学習会の開催

「腎疾患と健診活動」（2014年4月）

「今日の労働者のおかれている状況と産業医活動」（2014年4月）

「暮らし、仕事と40歳以下2型糖尿病についての研究」（2015年3月）

#### ②産業医の育成

労働者の健康を守る産業医の必要性は高まっている中で、宮城民医連として産業医資格のある医師の養成に取り組んでいます。2年に1回産業医活動交流集会を開催し経験交流と情勢学習を行っています。

重要な問題として後継者の育成があります。産業医学分野を継続するためには医師だけでなく、保健師・産業看護師、社会福祉士、事務など他職種の関与が必要となり、各職種の計画的養成を追求しています。

### ○宮城県教組の活動

#### ①職場の労働安全衛生体制の確立を目指して

各支部代表が参加し、第1回宮教組労安推進委員会を開催した。川口市の進んだ事例を学び、今後、各支部・地区ごとに労安体制整備を進めていくことを確認し、各市町村教育委員会に対して、安全衛生委員会及び安全衛生体制の確立と活動の充実を要請しました。

## ②「働くもののいのちと健康」に関わる学習会の開催

「第7回専門部GO!DO!教研」にて、講座「多忙に負けないメンタルヘルスケア」（講師：土井一博さん 川口市教職員メンタルヘルスチーフカウンセラー，大学非常勤講師）を開催した。

閉会のあいさつは、新副会長に選出された村上智志さん（宮城県教組執行委員長）から、総会の方針に確信を持ち、「残業代ゼロ法案」などの人間らしい働き方を破壊する「労働法制の改悪」を阻止するために共同して闘いましょうと力強いあいさつがありました。



## 主な新役員

会長	安藤 満	(宮城県労働組合総連合)
副会長	金谷 貞雄	(宮城県民主医療機関連合会)
副会長	伊藤 貞夫	(宮城県商工団体連合会)
副会長	村上 智志	(宮城県教職員組合) (新)
副会長	富樫 昌良	(前働くもののいのちと健康を守る宮城県センター事務局長)
事務局長	芳賀 直	(働くもののいのちと健康を守る全国センター理事)
幹事(事務局次長)	中山 修	(宮城民主医療機関労働組合)
幹事(事務局次長)	熊谷 義純	(宮城県民主医療機関連合会)
幹事(事務局)	遠藤 義輝	(宮城一般労働組合)
〃	佐々木久美	(宮城県教職員組合) (新)
〃	鈴木 一利	(全日本建設交運一般労働組合宮城県本部)

## 過労死・過労自殺 110番開催

6月20日(土)、過労死・過労自殺110番に取り組みました。相談件数は2件でした。相談内容の特徴として、仙台市職員の奥さんから夫が過労自殺をしたとの電話相談があり、すぐに面接会場に来ていただき事情を聞きました。杉山弁護士が応じて今後の公務災害への対応を継続して行うことを確認しました。亡くなられた方は、震災後の復興事業に従事していて、毎日深夜まで残業で休日も休めなかったそうです。その他、トラックドライバーの長時間労働で、休日は疲れて寝たら起きられないと相談がありました。

